

研究報告書

厚生労働科学研究費補助金 (女性の健康の包括的支援総合研究事業)

令和四年度総括研究報告書

多様な世代の女性に対する情報メディアを通じた
アプローチの実践と情報発信基盤の構築に向けた研究

研究代表者：藤井 知行 東京大学医学部附属病院

研究要旨

人生 100 年時代と言われるように日本人は長寿化しており、特に女性の平均寿命は男性よりも長い。一方で、要介護平均期間では女性の方が男性よりも長くなっており、女性の健康寿命を延長させることは、女性の QOL のさらなる向上につながるだけでなく、現役世代の介護にかかる経済的、肉体的、精神的な負担を軽減する上で喫緊の課題であると言える。女性の健康には性成熟期に卵巣から分泌される性ホルモンが大きな影響を与えており、閉経前後で女性の健康問題は大きく変化する。こうした女性特有の健康問題についての知識を一般に普及させ、女性が健康的な生活をより長く送ることができるように啓蒙することは、女性の健康寿命延長に向けた有効な施策である。

本研究では「女性の健康リテラシーに関する基盤を構築すること」を目標として、多診療科で共同して女性の健康に関する最新でかつ信頼性の高い情報を収集し、Web サイトの形式で一般公開し、その閲覧状況を詳細に解析した。また女性の健康についてアドバイスができる「女性の健康相談員」を養成するために、診療科横断的な女性の健康に関する教育カリキュラムを作成し、Web サイトで一般公開した。社会的に情報提供が不十分で一般国民にニーズがあると考えられる女性の健康に関する情報と、Web サイト形式での情報提供の課題を明らかとした。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

大須賀穰：東京大学 医学部附属病院 女性外科教授

秋下雅弘：東京大学 医学部附属病院 老年病科教授

春名めぐみ：東京大学 大学院医学系研究科 母性看護学・助産学教授

市橋香代：東京大学 医学部附属病院 精神神経科特任講師

菊池昭彦：埼玉医科大学 医学部総合医療センター 産婦人科教授

田中栄：東京大学医学部附属病院整形外科学教授

対馬ルリ子：医療法人社団 ウィミンズ・ウェルネス対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座 理事長・院長

鈴木真理：政策研究大学院大学保健管理センター教授

平池修：東京大学医学部附属病院女性診療科・産科准教授

若尾文彦：国立がん研究センターがん対策情報センター センター長

A. 研究目的

日本人は長寿化しており、『人生 100 年時代』と言われるようになって久しい。一般的に女性の平均寿命は男性より長い。我が国ではその差は約 7 年である。一方で、平均寿命から寝たきりや認知症など要介護状態の期間を差し引いた健康寿命期間を男女で比較すると、日本人女性は男性よりも 4 年しか長くない。つまり要介護平均期間は男性の 9 年間に対し女性は 12 年間であり、女性は男性よりも要介護期間が長い。女性の健康寿命を延長させることにより、女性の QOL (生活の質) が向上するだけでなく、現役世代による介護に伴う経済的、肉体的、精神的な負担を軽減することが期待できる。高齢化、労働者不足が急速に進む本邦では、女性の健康寿命の延長は喫緊の課題である。

女性の健康には、性成熟期に卵巣から分泌される性ホルモンが大きく影響する。50 歳前後で閉経すると、性ホルモンが低下し生活習慣病が急激に増加する。例えば、50 歳前では脂質異常症の患者数は男性の方が女性よりも多いが、50 歳以降では女性の方が男性よりも多くなる。また高齢期女性の多くは骨粗鬆症、認知症など高齢期特有の問題を抱え、結果としてフレイル (加齢により心身が老い衰えた状態) で過ごす期間が男性よりも長くなる。これらの女性特有の性ホルモンの変化にともなう健康問題についての知識を一般に普及させることで、女性の健康寿命が延長することが期待できる。

これまでの我が国の健康支援において、女性の健康に対する政策は十分でなかった。女性の健康に関する情報提供基盤が十分に構築されていないために、性ホルモンのダイナミックな変化に影響を受ける女性の健康特性が国民に十分に認識されていないことがその要因の一つであると我々は考えている。そこで「女性の健康リテラシーに関する基盤構築」を第一の目標として研究を進めた。産婦人科医師が中心となり内科、整形外科、小児科、老年病科などの多診療科の専門医師と共同して、女性の健康に関する最新でかつ信頼性の高い情報を収集した。収集した情報は Web サイトの形式で、インターネット上で一般公開している。インターネット上に一般公開する Web サイトは印刷物とは異なり、どのような情報が、いつ、どこで、どのような経路で、何回、

どれくらいの時間、閲覧されていたかを評価することができる。毎月、サイト毎にユーザー解析を行うことにより、ユーザーが求めている情報つまり現状で提供が不十分で、ニーズがあると考えられる情報を明らかにすることができる。

女性特有の疾患には、複数の診療科による集学的な治療を必要とする診療科横断的なものがある。そのような診療科横断的な疾患の場合、従来の医学の枠組みでは情報提供体制・診療体制を整備することが困難である。そのような疾患は、社会に認知されにくく、予防や治療に関する国民の理解は不十分になる。例えば神経性やせ症などの摂食障害は精神科的疾患であるが、栄養不良による骨量の低下に伴う易骨折性、内分泌機能の低下に伴う発育障害や性発達障害、嘔吐に伴う胃液の逆流による酸蝕症 (細菌の関与がない酸による化学的な歯質の溶解) や齲歯など様々な症状を合併する。逆に、これらの緒症状を契機として摂食障害と診断されるケースもある。したがって摂食障害の患者やその家族には、精神科医だけでなく、産婦人科医、整形外科医、小児科医、内分泌・代謝内科医、歯科医など複数の診療科の医師や看護師による診療と支援が必要となる。現状では、摂食障害そのものに対する情報提供や診療体制は整備されつつあるが、それぞれの診療科専門医による診療科縦断的なものにとどまっている。

このような現状を打開するために、「女性の健康相談員」を養成することが有効であると考えた。「女性の健康相談員」は専門的な医療者ではないが、複雑な病態を呈する女性特有の疾患について、教育機関や職場などで啓蒙活動を行ったり、実際に相談にのったりすることが期待される。非医療者を対象として医師が作成、監修、一般公開する女性の健康教育に関する e ラーニングはこれまでない。我々は「女性の健康相談員」を養成するための教育プログラムを作成し、インターネット上で一般公開し、情報提供をするとともに効果的な情報提供のあり方を明らかにする。

B. 研究方法

平成 27 年度に立ち上げた女性の健康に関する多彩な情報を提供する「女性の健康推進室ヘルスケラボ (<https://w-health.jp>)」をベースとして、令和 4 年度も引き続き Web サイトの

内容を更新して、閲覧についての解析を行なった。本研究のプラットフォームである本サイトに掲載されている記事に関して評価するために、毎月のセッション数およびページビューPV数を集計、解析した。より広く情報提供を行うために、SEO (Search Engine

Optimization : 検索サイトにおける検索結果で自らのサイトを多く露出するために行う作業) 対策を継続的に行った。解析に関してはグーグルアナリティクスでデータを抽出した。本研究を行うにあたり、これらアクセスに関する情報 (性別および年齢層、利用デバイス、新規訪問もしくはリピート訪問、利用時間帯、ユーザー訪問とPV数、訪問頻度、流入経路、訪問あたりの滞在時間とPV数) を解析した。また今年度は新たにセルフチェックサイトの解析を行った。とくにアクセス数の多い5つのセルフチェックサイト (月経前緊張症候群、摂食障害、うつ症状、月経困難症、更年期障害) についてユーザー特性を分析した。これらの情報は機器そのものから得られる属性だけであるため、個人を識別できるような個人情報を含まないことから倫理面に関して問題点はない。

女性の健康管理に関して熟知し女性の健康についてアドバイスできる人材 (女性の健康相談員) を養成することを目的して、教育カリキュラムの作成を行なった。日本産科婦人科学会の女性のヘルスケアアドバイザー養成プログラムを一部活用し、不足している内容を追加、古くなっているデータを更新することにより、eラーニングシステムを構築した。作成したeラーニングのカリキュラムは、主に企業、自治体、教育機関などで女性の健康増進・向上に役立つこととし、一般公開した。

C. 研究結果

- 1) 女性を対象とした情報提供 HP「女性の健康推進室ヘルスラボ」とそのアクセス内容に関する研究

本HPはライフステージ別女性の健康ガイドという大項目から、小児期・思春期、成人期、更年期、老年期、妊娠・出産、という小

項目に移動出来るようにしている。本年度も大きなスタイル変更は行わなかった。「お知らせ一覧」 (<http://w-health.jp/information/>) に時事ニュースや社会の変化に対応した新規記事を追加した。特に検索されることの多いキーワードに関する女性の健康関連の記事や、ニュースなどで話題となった健康関連の出来事に関する解説記事を中心に新規情報を追加した。

アクセスに関する解析

平成28年3月にHPが開設されて以来、令和4年12月末日までのHPへのアクセスに関するデータを解析し、デバイス別セッション数および年齢別月間セッション数からみたユーザー属性を検討した。

利用ユーザー属性として性別および年齢層、利用デバイス、新規訪問もしくはリピート訪問、利用時間帯を調査した。メインユーザーは女性で、25～44歳だった。利用デバイスはモバイルが9割、PCが1割だった。新規訪問が9割で、リピート訪問が1割だった。利用時間帯は平日に集中しており、週前半から週後半にかけて下落していた。19時から23時のアクセスが4割で、13時から18時のアクセスが2.5割だった。これらの傾向に昨年度と変化がなかった。

アクセスおよび回遊状況として、ユーザー訪問とPV数、訪問頻度、流入経路、訪問あたりの滞在時間とPV数を調査した。ユーザー訪問とPV数は令和元年から令和2年にかけて上昇傾向だったが、令和2年5月から急激に減少し、下降トレンドが持続した。令和2年11月から再度緩やかな上昇となり、令和3年9月にピークを迎えた。その後は令和4年12月までは60万回程度で大きな増減なく推移した。訪問ユーザーの月あたりの平均訪問回数は1.1回だった。9割が自然検索による流入でそのうち9割をGoogle/Yahooの検索エンジン経由であった。SNSからの流入は1割以下だった。訪問あたりの平均滞在時間は1分以内が8割を占めた。1訪問あたりのPV数は平均2回だった。

セルフチェックサイトの解析

令和4年6月1日から令和5年2月26日までの期間のセルフチェックサイトのアクセス数を調査したところ、月経前緊張症候群、摂食障害が上位3位で、そのほかに月経困難症が7位、更年期障害が9位だった。これら5つのセルフチェックサイトについて解析した。月経前緊張症候群についてはセルフチェックを受けた84.9%が「月経前緊張症候群の可能性が高い」という結果となっており、自覚症状がありサイトでチェックするユーザーのほとんどが月経前緊張症候群の可能性があるとこの結果だった。さらに、月経前緊張症候群のセルフチェックをした10761人のうちセルフチェック後に、サイト内の月経前緊張症候群の記事のリンクをクリックしたユーザーが4000人いた。月経前緊張症候群についてはセルフチェックを受けることにより関連する記事を読覧する動機づけになることがわかった。

摂食障害については、女性の方が男性よりも「摂食障害の可能性が高い」ユーザーが多かった。摂食障害のセルフチェックをした6933人のユーザーのうち、セルフチェック後に「摂食障害」の記事にリンクしたユーザーは500人とどまった。地域別には、東京、大阪、愛知などの大都市圏のユーザーであった。

うつ症状については、男女差はほとんどなかった。一方でセルフチェックを受けた後に、「不眠症」「フレイル」「更年期障害」などの他のセルフチェックに遷移していた。うつ症状に関連した諸症状が多く、うつ症状のような気持ちや気分に関するセルフチェックを受けるユーザーは、その他の気持ちや気分に関する他のセルフチェックも比較していることが推測された。

月経困難症については、セルフチェックを受けた59.5%が「婦人科を受診しましょう」という結果となっていた。セルフチェックの後には「子宮内膜症」「子宮筋腫」など月経困難症の原因となる疾患に関する記事にリンクしていた。セルフチェックを受けることにより、関連する記事を読覧する動機づけになることがわかった。またセルフチェックを受

けた後に、「月経前緊張症候群」のセルフチェックの記事に遷移しているユーザーが1000人いた。月経困難症に関心のあるユーザーは月経前緊張症候群にも関心があることがわかった。

更年期障害については、セルフチェックを回答したユーザーの年齢層は、35-40歳が最多で、ついで25-34歳、45-54歳、18-24歳だった。一般的に更年期障害をきたす45-54歳よりも若年の35-40歳のユーザーが最も更年期障害に関心を持っていることがわかった。セルフチェックの結果については、「食事、運動などに注意を払い、生活様式などにも無理をしないようにしましょう」という結果が39.5%で、最も強い症状が想定される「医師の診察を受け、生活指導、カウンセリング、薬物療法を受けた方がいいでしょう」の27.9%を上回った。

2) 健康支援教育プログラムと健康相談員の養成を目的とした e ラーニングシステム構築

女性の健康相談員の e ラーニングシステム

令和2年度、3年度に情報収集、作成した「女性の健康相談員」養成のための教育プログラムを動画で一般公開した。当初の計画では、カリキュラムを基礎的講座と専門的講座に分類した上で、基礎と専門の修了証を発行する予定であった。Web サイト上で修了証を発行する場合には個人情報登録したり、ID やパスワードを発行するなどの個人情報管理が必要となるため、本研究の枠組みでの実施は困難と判断した。

月経困難症、月経前緊張症候群・月経前不快感障害、乳がん検診、更年期障害不定愁訴、子宮がん検診、合併症を持つ女性の妊娠、妊娠中・後にみられる症状への対応、女性のキャリア形成・維持とダイバーシティ、骨粗鬆症、原発性無月経・思春期の月経異常とその治療、摂食障害に対する適切な対応、リプロダクティブ・ヘルス/ライツと安全な中絶、女性アスリートのヘルスケア、血管運動神経症状、不眠・うつ・認知症、腰痛関連、排尿関連症状、外陰掻痒・性器萎縮、動

脈硬化症に関連した症状、女性に多くみられるがん、加齢と妊孕性、避妊、日常診療で遭遇する若年女性の性感染症、性暴力被害・ハラスメント・DV、プレコンセプションケア、OC /LEP、思春期早発症の計 26 講座を動画形式で公開した。

D. 考察

「女性の健康リテラシーの基盤構築」を主目標とする我々の活動は、女性の健康に関する情報提供を行う Web サイトと女性特有の疾患に関する e ラーニングを作成、運用、評価することにより、女性の健康を支える全ての人に対する啓発を行なった。信頼性の高い情報を、定期的に更新して一般公開することにより、女性の健康に関する意識が高まり、理解が深まることが期待される。一方で、Web サイト上でより多くの人に情報提供するために、その特性を理解した対策が必要であり、本研究によりその対策が明らかとなった。

本サイトは自然検索からの流入がほとんどであるが、SEO 対策が十分とはいえ、専門家が作成した信頼性の高い情報内容にも関わらず自然検索からの流入を逃していた。SEO 対策としては、女性の健康関連で特に頻りに検索されているキーワードを調査し、タイトルや見出しに埋め込むこと、新しいコンテンツの作成をすること、タイトルや見出しを再設定することが考えられる。

「女性の健康ガイド」「女性のがん」「女性の病気と悩み Q&A」は検索数の多いキーワードであるが、それらのキーワードで Google や Yahoo などの検索における本サイトの表示順位は低い。これらの検索数が多いキーワードで高い検索順位を獲得することにより多くの流入を期待する。これらの記事については今後改善していく必要がある。

サイト上で用いる用語の選択も重要である。「生理」という用語は学術的に用いられることはなく、「月経」と記載されることが多い。本サイトにおいても「月経痛」と記載していたが、ユーザーが「生理痛」で検索し

た場合には本サイトの検索順位が大幅に低下していた。このように正しい医学用語よりも国民に受け入れられている用語を使い、情報をより多くの人に届けることが重要である。記事を作成する場合にはインパクトの大きなキーワードを意識して作成することが重要である。

キーワードを見出しに記載することも重要である。本文の中に検索数が多いキーワードが含まれていても、見出しに含まれていない場合には、検索順位が大きく低下することがある。記事毎に見出しの付け方を統一することも有効であろう。

類似記事を提供している他の Web サイトを参考にして、検索数の多いキーワードを狙った新規コンテンツの作成も有効であるとされている。日本産科婦人科学会のウェブサイトでは「前置胎盤」の検索数が多く、令和 4 年度には本サイトでも前置胎盤の記事を新規作成し、多く閲覧されている。このような取り組みは今後も続けていく必要があるだろう。

SNS からの流入を増やすことも、特に若年層のユーザー獲得に向けては重要であると考えられる。令和 4 年度に試験的にインスタグラムを開設して情報提供を行なったが、流入増加には繋がらなかった。インスタグラムの特性に合わせた情報更新が必要と考えられる。

本サイトは、サイト内で「回遊」することが少ないことも明らかとなった。探している情報に辿り着きにくかったり、記載されている情報が理解されにくかったり、関連情報が得られにくかったり、モバイルデバイスのユーザーには閲覧しづらかったりすることが考えられた。対応策として、サイト内検索で想定されるキーワードでの検索対応を可能にし、関連しない情報は表示しないことは有効であると考えている。また、各段落で何が記載されているのか見出しをつけたり、重要情報には太字を用いて強調するなどの対応が必要である。スマホユーザーがメインであるため、あまり長文の記事とせず、簡潔で平易な文章での情報提供を心がける。実際に本サイト内の記事ページの場合には、スマホユーザーの直帰率は PC ユーザーよりも高かつ

た。目次を用いて一見して記事の全体像を伝え、ユーザーが必要とする情報をすぐに見つけられるように改善するべきであると考えられた。冒頭に記事の要約を掲載することも有用であろう。

今後さらに分析を深めるに当たっては、現在の Google Analytics では見られない指標（クリックや動画再生等のイベント設定）を調査できるように工夫したり、ダッシュボード環境を整備したりすることも重要である。

ヘルスケアラボの長期的な数値トレンドを解析すると、Google 社のアルゴリズムアップデートが流入者数の変動に深く関わっていることは明白である。2020 年初頭から徐々に PV 数が増加していたことは新型コロナウイルス感染拡大による国民の健康関心度の上昇が起因していたと考えられるが、2020 年 5 月、12 月、2021 年 7 月のアルゴリズムアップデートでは新型コロナウイルス以上に強い PV 数の増減があった。Google 社のアルゴリズムアップデートがあった場合には、どのような影響があったか調査し、PV 数を増加させるために適切に対応する必要があることが明らかとなった。

サイト内で運用していたヘルスケアラボ健康相談窓口では摂食障害に関する問い合わせが 3 分の 2 以上を占めていた。また摂食障害に関する記事の閲覧数は上位を占めていた。社会的な背景として、「新型コロナウイルス」で起きた 4 つの変化が影響していると考えられる。一つは、「黙食」が普及し、1 人で食べることの推奨され食事の様式が変化したことが挙げられる。食事時間の楽しみが減り、学生や児童では食欲が低下したことが報告されている。次に、通常の生活に戻った時の身体的変化への恐怖である。学校や会社、友人など久しぶりに「リアル」で会う人たちからの身体的評価に対して敏感になったことが考えられる。次に、実家への帰省が減少し、シングル女性が親と離れていることによる変化である。食への家族からの心配や情報から離れたことにより、正しい栄養管理ができなくなったことが考えられる。最後は Web や SNS など配信動画への接触が増えたことである。日本人にとって身近な韓国などを中心

としたアイドル文化への憧れから、アイドルを見る機会が増え、自身と対比し、憧れと現実の間で悩み食えることに対する恐怖を感じてしまったことが考えられる。摂食障害は長期的にも女性の健康に負の影響を与える可能性があり、正しい情報を迅速に提供する必要がある。

本年度は e ラーニングサイトを動画で公開したが、音声はつけることができなかった。視聴者により深く理解してもらうために、講師による音声をつけた動画スライドとすることを検討する。

E. 結論

性ホルモンに強い影響を受ける女性特有の健康に関する正しい情報をより多くの国民に届けることを目的とした本研究で、Web サイトによる情報提供の実行可能性が確認された。一方で、Web サイトの閲覧数は検索サイトのアルゴリズムに大きく影響を受けるなど従来の書籍や講演会などとは異なる Web サイトの特徴も明らかとなった。より効率的に情報提供をするためには情報が正しいというだけでは不十分で、Web サイトの閲覧状況を定期的に解析し、サイトの形式や用語の選択などを更新し続ける必要がある。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

1. 論文発表

藤井 知行

- 1) Nose-Ogura S, Yoshino O, Kamoto-Nakamura H, Kanatani M, Harada M, Hiraike O, Saito S, Fujii T, Osuga Y. Age and menstrual cycle may be important in establishing pregnancy in female athletes after retirement from competition. *Phys Sportsmed*. 2023 Apr 10:1-6. doi: 10.1080/00913847.2023.2199687. Online ahead of print.
- 2) Nose-Ogura S, Yoshino O, Nakamura-Kamoto H, Kanatani M, Harada M, Hiraike O, Saito S, Fujii T, Osuga Y. Medical issues

- for female athletes returning to competition after childbirth. *Phys Sportsmed*. 2023 Mar 10;1-7. doi: 10.1080/00913847.2023.2188395. Online ahead of print.
- 3) Yano E, Iriyama T, Hanaoka S, Sayama S, Ichinose M, Toshimitsu M, Seyama T, Sone K, Kumasawa K, Nagamatsu T, Kobayashi K, Fujii T, Osuga Y. Anatomical identification of ischial spines applicable to intrapartum transperineal ultrasound based on magnetic resonance imaging of pregnant women. *J Matern Fetal Neonatal Med*. 2022 Dec;35(25):9736-9741. doi: 10.1080/14767058.2022.2051007. Epub 2022 Mar 14.
 - 4) Fukano M, Aisaka K, Nose-Ogura S, Fujii T, Torii S. Progressive Changes in Lumbopelvic Alignment during the Three Month-Postpartum Recovery Period. *Int J Environ Res Public Health*. 2022 May 10;19(10):5807. doi: 10.3390/ijerph19105807.
 - 5) Kasuya M, Akiba N, Iriyama T, Sayama S, Kubota K, Toshimitsu M, Seyama T, Sone K, Kumasawa K, Nagamatsu T, Fujii T, Osuga Y. The impact of fetal growth restriction in diagnosing preeclampsia on the severity of maternal features. *J Obstet Gynaecol Res*. 2022 Apr;48(4):912-919. doi: 10.1111/jog.15152. Epub 2022 Mar 3.
 - 6) Sayama S, Iriyama T, Nakayama T, Seyama T, Sone K, Kumasawa K, Nagamatsu T, Suzuki K, Fujii T, Osuga Y. Prenatal diagnosis of pyriform sinus fistula using ultrasonography by detecting the communication to the pharynx. *Taiwan J Obstet Gynecol*. 2022 Mar;61(2):385-387. doi: 10.1016/j.tjog.2022.02.035.
 - 7) Tamaru S, Jwa SC, Ono Y, Seki H, Matsui H, Fujii T, Iriyama T, Doi K, Sameshima H, Naruse K, Kobayashi H, Yoshida R, Nishi H, Hirata Y, Fukushima K, Hirakawa T, Nakano Y, Asakawa Y, Tsunoda Y, Oda T, Nii S, Fujii T, Kinoshita K, Kamei Y. Feasibility of a mobile cardiocogram device for fetal heart rate self-monitoring in low-risk singleton pregnant women. *J Obstet Gynaecol Res*. 2022 Feb;48(2):385-392. doi: 10.1111/jog.15118. Epub 2021 Dec 5.
 - 8) Mimura N, Nagamatsu T, Morita K, Taguchi A, Toya T, Kumasawa K, Iriyama T, Kawana K, Inoue N, Fujii T, Osuga Y. Suppression of human trophoblast syncytialization by human cytomegalovirus infection. *Placenta*. 2022 Jan;117:200-208. doi: 10.1016/j.placenta.2021.12.011. Epub 2021 Dec 11.
 - 9) Machino H, Kaneko S, Komatsu M, Ikawa N, Asada K, Nakato R, Shozu K, Dozen A, Sone K, Yoshida H, Kato T, Oda K, Osuga Y, Fujii T, von Keudell G, Saloura V, Hamamoto R. The metabolic stress-activated checkpoint LKB1-MARK3 axis acts as a tumor suppressor in high-grade serous ovarian carcinoma. *Commun Biol*. 2022 Jan 11;5(1):39. doi: 10.1038/s42003-021-02992-4.
 - 10) Sayama S, Iriyama T, Takeda N, Yamauchi H, Toshimitsu M, Seyama T, Sone K, Kumasawa K, Nagamatsu T, Fujii T, Osuga Y. Proposed Management Policy for Pregnant Women with Loeys-Dietz Syndrome Following Prophylactic Aortic Root Replacement Based on Experience from a Tertiary Care Center. *Int Heart J*. 2022;63(1):176-179. doi: 10.1536/ihj.21-341.
- 大須賀 穰
- 1) Elsherbini M, Koga K, Hiraoka T, Kumasawa K, Maki E, Satake E, Taguchi A, Makabe T, Takeuchi A, Izumi G, Takamura M, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Wada-Hiraike O, Osuga Y. Establishment of a novel mouse model of adenomyosis suitable for longitudinal and quantitative analysis and perinatal outcome studies. *Sci Rep*. 2022;12(1):17515. doi: 10.1038/s41598-022-22413-8.
 - 2) Elsherbini M, Koga K, Maki E, Kumasawa K, Satake E, Taguchi A, Makabe T, Takeuchi A,

- Izumi G, Takamura M, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Wada-Hiraike O, Osuga Y. Impact of Chronic Exposure to Endometriosis on Perinatal Outcomes: Establishment of a Mouse Model. *Biomedicines*. 2022;10(10):2627. doi:10.3390/biomedicines10102627.
- 3) Uehara M, Hiraike O, Hirano M, Harada M, Koga K, Yoshimura N, Tanaka S, Osuga Y. Evaluation of atherosclerosis-related biomarkers during perimenopause: A prospective cohort study in women with endometriosis. *J Obstet Gynaecol Res*. 2022;48(12):3160-3170. doi: 10.1111/jog.15447.
- 4) Harada T, Taniguchi F, Kitajima M, Kitawaki J, Koga K, Momoeda M, Mori T, Murakami T, Narahara H, Osuga Y, Yamaguchi K. Clinical practice guidelines for endometriosis in Japan (The 3rd edition). *J Obstet Gynaecol Res*. 2022;48(12):2993-3044. doi: 10.1111/jog.15416.
- 5) Uehara M, Wada-Hiraike O, Koga K, Yamamoto N, Hirano M, Harada M, Hirota Y, Osuga Y. Prediction of the final menstrual period in women taking Dienogest using estradiol and follicle-stimulating hormone values: a case-control study. *Endocr J*. 2022;69(12):1437-1445. doi: 10.1507/endocrj.EJ22-0158.
- 6) Ishizaka A, Taguchi A, Tsuruga T, Maruyama M, Kawata A, Miyamoto Y, Tanikawa M, Ikemura M, Sone K, Mori M, Koga K, Ushiku T, Oda K, Osuga Y. Endometrial cancer with concomitant endometriosis is highly associated with ovarian endometrioid carcinoma: a retrospective cohort study. *BMC Womens Health*. 2022;22(1):332. doi: 10.1186/s12905-022-01917-5.
- 7) Nagashima N, Hirata T, Arakawa T, Neriishi K, Sun H, Harada M, Hirota Y, Koga K, Wada-Hiraike O, Osuga Y. Long-term conservative management of symptomatic bladder endometriosis: A case series of 17 patients. *Taiwan J Obstet Gynecol*. 2022;61(4):606-611. doi: 10.1016/j.tjog.2022.02.044.
- 8) Sun H, Hirata T, Koga K, Arakawa T, Nagashima N, Neriishi K, Elsherbini M, Maki E, Izumi G, Harada M, Hirota Y, Wada-Hiraike O, Osuga Y. Elevated phosphorylation of estrogen receptor α at serine-118 in ovarian endometrioma. *F S Sci*. 2022;3(4):401-409. doi: 10.1016/j.xfss.2022.04.004.
- 9) Hirakawa T, Yotsumoto F, Shirasu N, Kiyoshima C, Urushiyama D, Yoshikawa K, Miyata K, Kurakazu M, Koga KA, Aoki M, Nabeshima K, Koga KS, Osuga Y, Komatsu H, Taniguchi F, Harada T, Yasunaga S, Miyamoto S. Trophic and immunomodulatory effects of adipose tissue derived stem cells in a preclinical murine model of endometriosis. *Sci Rep*. 2022;12(1):8031. doi: 10.1038/s41598-022-11891-5.
- 10) Uehara M, Wada-Hiraike O, Hirano M, Koga K, Yoshimura N, Tanaka S, Osuga Y. Relationship between bone mineral density and ovarian function and thyroid function in perimenopausal women with endometriosis: a prospective study. *BMC Womens Health*. 2022;22(1):134. doi: 10.1186/s12905-022-01711-3.
- 11) Hiraoka T, Hirota Y, Aikawa S, Iida R, Ishizawa C, Kaku T, Hirata T, Fukui Y, Akaeda S, Matsuo M, Shimizu-Hirota R, Takeda N, Osuga Y. Constant Activation of STAT3 Contributes to the Development of Adenomyosis in Females. *Endocrinology*. 2022;163(5):bqac044. doi: 10.1210/endocr/bqac044.
- 12) Yamada M, Ishikawa T, Iwasa T, Oishi H, Osuka S, Oka K, Ono S, Ono M, Orisaka M, Kanasaki H, Kawano Y, Kawamura K, Kishi H, Kimura F, Kuroda S, Kuwahara A, Kobayashi H, Komiya A, Saito H, Sato K, Sato S, Shiraishi K, Shirasawa H, Suzuki T, Takai Y, Takae S, Takahashi T, Takiuchi T, Tachibana M, Tamura I, Tamura H, Jwa SC, Baba T, Harada M, Hirata T, Fukui A,

Fukuda Y, Fukuhara S, Maruyama T, Yumura Y, Yoshino O, Hirota Y, Tsujimura A, Kuji N, Osga Y. Guidelines for Reproductive Medicine in Japan. *Reprod Med Biol*. 2022 Aug 24;21(1):e12483. doi:10.1002/rmb2.12483.

秋下 雅弘

- 1) Kazawa K, Akishita M, Ikeda M, Iwatsubo T, Ishii S. Experts' perception of support for people with dementia and their families during the COVID-19 pandemic. *Geriatr Gerontol Int* . 2022 Jan;22(1):26-31. doi: 10.1111/ggi.
- 2) Lyu W, Tanaka T, Son BK, Yoshizawa Y, Akishita M, Iijima K. Associations of Nutrition-Related, Physical, and Social Factors and Their Combinations with Sarcopenia in Community-Dwelling Older Adults: Kashiwa Cohort Study. *Nutrients*. 2022 Aug 27;14(17):3544. doi: 10.3390/nu14173544.
- 3) Akishita M, Suzuki S, Inoue H, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Yamashita T. Frailty screening index and atrial fibrillation outcomes in the All Nippon AF In the Elderly registry. *Geriatr Gerontol Int*. 2022 Oct;22(10):899-902. doi: 10.1111/ggi.14458. Epub 2022 Aug 19.
- 4) Yamanaka T, Kidana K, Mizuki M, Hattori Y, Hamada S, Akishita M. Sex differences in places of home care. *Geriatr Gerontol Int*. 2022 Sep;22(9):813-814. doi: 10.1111/ggi.14444. Epub 2022 Jul 25.
- 5) Hattori Y, Hamada S, Yamanaka T, Kidana K, Iwagami M, Sakata N, Tamiya N, Kojima T, Ogawa S, Akishita M. Drug prescribing changes in the last year of life among homebound older adults: national retrospective cohort study. *BMJ Support Palliat Care*. 2022 Jul 13;bmjspcare-2022-003639. doi: 10.1136/spcare-2022-003639.

- 6) Akishita M, Suzuki S, Inoue H, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Yamashita T. Frailty and outcomes in older adults with non-valvular atrial fibrillation from the ANAFIE registry. *Arch Gerontol Geriatr*. 2022 Jul-Aug;101:104661. doi: 10.1016/j.archger.2022.104661

市橋 香代

- 1) Kageyana M, Koide K, Saita R, Iwasaki-Motegi R, Ichihashi K, Nemoto K, Sakae S, Yokoyama K. A randomized controlled study of an e-learning program (YURAIKU-PRO) for public health nurses to support parents with severe and persistent mental illness and their family members. *BMC Nursing*. 2022 Dec 5;21(1):342. doi: 10.1186/s12912-022-01129-0.PMID: 36471361
- 2) Kyou Y, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, Ide K, Ichihashi K, Hashimoto N, Hori H, Shimizu Y, Imamura Y, Muraoka H, Iida H, Ohi K, Yasuda Y, Ogasawara K, Numata S, Iga JI, Tsuboi T, Ochi S, Kodaka F, Furihata R, Onitsuka T, Makinodan M, Komatsu H, Takeshima M, Kubota C, Hishimoto A, Atake K, Yamagata H, Kido M, Nagasawa T, Usami M, Kishimoto T, Kikuchi S, Matsumoto J, Miura K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Hahimoto R. The characteristics of discharge prescriptions including pro re nata psychotropic medications for patients with schizophrenia and major depressive disorder from the survey of the "Effectiveness of guidelines for dissemination and education in psychiatric treatment (EGUIDE)" project. *Ann Gen Psychiatry*. 2022 Dec 26;21(1):52. doi: 10.1186/s12991-022-00429-8. PMID: 36567327; PMCID: PMC9791735.
- 3) Kirihara K, Fujioka M, Suga M, Kondo S, Ichihashi K, Koshiyama D, Morita K, Ikegame T, Tada M, Araki T, Jinde S, Taniguchi K, Hosokawa T, Sugishita K,

- Dogan S, Marumo K, Itokawa M, Kasai K. Betaine supplementation improves positive symptoms in schizophrenia. *Schizophr Res*. 2022 Dec;250: 120-122. doi: 10.1016/j.schres.2022.11.009. Epub 2022 Nov 16. PMID: 36401992.
- 4) Iida H, Okada T, Nemoto K, Hasegawa N, Numata S, Ogasawara K, Miura K, Matsumoto J, Hori H, Iga JI, Ichihashi K, Hashimoto N, Yamada H, Ohi K, Yasui-Furukori N, Fukumoto K, Tsuboi T, Usami M, Furihata R, Takaesu Y, Hishimoto A, Muraoka H, Katsumoto E, Nagasawa T, Ochi S, Komatsu H, Kikuchi S, Takeshima M, Onitsuka T, Tamai S, Kubota C, Inada K, Watanabe K, Kawasaki H, Hashimoto R. Satisfaction with web-based courses on clinical practice guidelines for psychiatrists: Findings from the "Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)" project. *Neuropsychopharmacol Rep*. 2023 Mar;43(1):23-32. doi: 10.1002/npr2.12300. Epub 2022 Nov 28. PMID: 36444167; PMCID: PMC10009432.
- 5) Okada T, Hori H, Hasegawa N, Murata A, Kyou Y, Kodaka F, Iida H, Ochi S, Takaesu Y, Tsuboi T, Iga JI, Ichihashi K, Muraoka H, Furihata R, Yasui-Furukori N, Usami M, Onitsuka T, Ogasawara K, Tagata H, Takeshima M, Ohi K, Numata S, Hashimoto N, Yamada H, Makinodan M, Komatsu H, Hishimoto A, Yamagata H, Kido M, Kubota C, Atake K, Yamada H, Nagasawa T, Matsumoto J, Miura K, Inada K, Watanabe K, Suda S, Hashimoto R. Second-Generation Antipsychotic Monotherapy Contributes to the Discontinuation of Anticholinergic Drugs in Hospitalized Patients With Schizophrenia. *J Clin Psychopharmacol*. 2022 Nov-Dec 01;42(6):591-593. doi: 10.1097/JCP.0000000000001604. Epub 2022 Oct 3. PMID: 36193896.
- 6) Fukumoto K, Kodaka F, Hasegawa N, Muraoka H, Hori H, Ichihashi K, Yasuda Y, Iida H, Ohi K, Ochi S, Ide K, Hashimoto N, Usami M, Nakamura T, Komatsu H, Okada T, Nagasawa T, Furihata R, Atake K, Kido M, Kikuchi S, Yamagata H, Kishimoto T, Makinodan M, Horai T, Takeshima M, Kubota C, Asami T, Katsumoto E, Hishimoto A, Onitsuka T, Matsumoto J, Miura K, Yamada H, Yasui-Furukori N, Watanabe K, Inada K, Otsuka K, Hashimoto R. Development of an individual fitness score (IFS) based on the depression treatment guidelines of in the Japanese Society of Mood Disorders. *Neuropsychopharmacol Rep*. 2022 Nov 16. doi: 10.1002/npr2.12301. Epub ahead of print. PMID: 36394160.
- 7) Tsuboi T, Takaesu Y, Hasegawa N, Ochi S, Fukumoto K, Ohi K, Muraoka H, Okada T, Kodaka F, Igarashi S, Iida H, Kashiwagi H, Hori H, Ichihashi K, Ogasawara K, Hashimoto N, Iga JI, Nakamura T, Usami M, Nagasawa T, Kido M, Komatsu H, Yamagata H, Atake K, Furihata R, Kikuchi S, Horai T, Takeshima M, Hirano Y, Makinodan M, Matsumoto J, Miura K, Hishimoto A, Numata S, Yamada H, Yasui-Furukori N, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R. Effects of electroconvulsive therapy on the use of anxiolytics and sleep medications: a propensity score-matched analysis. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2022 Oct 10. doi: 10.1111/pcn.13489. Epub ahead of print. PMID: 36215112.
- 8) Iida H, Iga J, Hasegawa N, Yasuda Y, Yamamoto T, Miura K, Matsumoto J, Murata A, Ogasawara K, Yamada H, Hori H, Ichihashi K, Hashimoto N, Ohi K, Yasui-Furukori N, Tsuboi T, Nakamura T, Usami M, Furihata R, Takaesu Y, Iwamoto K, Sugiyama N, Kishimoto T, Tsujino N, Yamada H, Hishimoto A, Nemoto K, Atake K, Muraoka H, Katsumoto E, Oishi S, Inagaki T, Ito F, Imamura Y, Kido M, Nagasawa T, Numata S, Ochi S, Iwata M, Yamamori H, Fujita J, Onitsuka T, Yamamura S, Makinodan M, Fujimoto M, Takayanagi Y,

- Takezawa K, Komatsu H, Fukumoto K, Tamai S, Yamagata H, Kubota C, Horai T, Inada K, Watanabe K, Kawasaki H, Hashimoto R. Unmet needs of patients with major depressive disorder - Findings from the 'Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)' project: A nationwide dissemination, education, and evaluation study. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2020 Dec;74(12):667-669. doi: 10.1111/pcn.13143. Epub 2020 Oct 9. PMID: 32881226; PMCID: PMC7756454.
- 9) Ichihashi K, Hori H, Hasegawa N, Yasuda Y, Yamamoto T, Tsuboi T, Iwamoto K, Kishimoto T, Horai T, Yamada H, Sugiyama N, Nakamura T, Tsujino N, Nemoto K, Oishi S, Usami M, Katsumoto E, Yamamori H, Tomita H, Suwa T, Furihata R, Inagaki T, Fujita J, Onitsuka T, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Matsui Y, Takaesu Y, Hashimoto N, Iga J, Ogasawara K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R. Prescription patterns in patients with schizophrenia in Japan: First-quality indicator data from the survey of "Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in psychiatric treatment (EGUIDE)" project. *Neuropsychopharmacol Rep*. 2020 Sep;40(3):281-286. doi: 10.1002/npr2.12122. Epub 2020 Jun 30. PMID: 32602667; PMCID: PMC7722678.
- 10) Ogasawara K, Numata S, Hasegawa N, Nakataki M, Makinodan M, Ohi K, Takeshima M, Tsuboi T, Hashimoto N, Onitsuka T, Muraoka H, Hori H, Ichihashi K, Inagaki T, Yasui-Furukori N, Hishimoto A, Sugiyama N, Fukumoto K, Nagasawa T, Matsumoto J, Takaesu Y, Furihata R, Nemoto K, Nakamura T, Usami M, Miura K, Fujimoto M, Tagata H, Yamada H, Komatsu H, Ochi S, Atake K, Katsumoto E, Kido M, Kishimoto T, Suwa T, Yamamura S, Iga JI, Iida H, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R. Subjective assessment of participants in education programs on clinical practice guidelines in the field of psychiatry. *Neuropsychopharmacol Rep*. 2022 Jun;42(2):221-225. doi: 10.1002/npr2.12245. Epub 2022 Mar 10. PMID: 35272393; PMCID: PMC9216374.
- 11) Hori H, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, Iga JI, Ochi S, Ichihashi K, Furihata R, Kyo Y, Takaesu Y, Tsuboi T, Kodaka F, Onitsuka T, Okada T, Murata A, Kashiwagi H, Iida H, Hashimoto N, Ohi K, Yamada H, Ogasawara K, Yasuda Y, Muraoka H, Usami M, Numata S, Takeshima M, Yamagata H, Nagasawa T, Tagata H, Makinodan M, Kido M, Katsumoto E, Komatsu H, Matsumoto J, Kubota C, Miura K, Hishimoto A, Watanabe K, Inada K, Kawasaki H, Hashimoto R. Prescription of Anticholinergic Drugs in Patients With Schizophrenia: Analysis of Antipsychotic Prescription Patterns and Hospital Characteristics. *Front Psychiatry*. 2022 May 17;13:823826. doi: 10.3389/fpsyt.2022.823826. PMID: 35656353; PMCID: PMC9152135.
- 12) Muraoka H, Kodaka F, Hasegawa N, Yasui-Furukori N, Fukumoto K, Kashiwagi H, Tagata H, Hori H, Atake K, Iida H, Ichihashi K, Furihata R, Tsuboi T, Takeshima M, Komatsu H, Kubota C, Ochi S, Takaesu Y, Usami M, Nagasawa T, Makinodan M, Nakamura T, Kido M, Ueda I, Yamagata H, Onitsuka T, Asami T, Hishimoto A, Ogasawara K, Katsumoto E, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Nishimura K, Hashimoto R. Characteristics of the treatments for each severity of major depressive disorder: A real-world multi-site study. *Asian J Psychiatr*. 2022 Aug;74:103174. doi: 10.1016/j.ajp.2022.103174. Epub 2022 May 18. PMID: 35661492.
- 13) Onitsuka T, Hirano Y, Nakazawa T, Ichihashi K, Miura K, Inada K, Mitoma R, Yasui-Furukori N, Hashimoto R. Toward recovery in schizophrenia: Current concepts, findings,

and future research directions. *Psychiatry Clin Neurosci.* 2022 Jul;76(7):282-291. doi: 10.1111/pcn.13342. Epub 2022 Apr 1. PMID: 35235256.

- 14) 市橋香代. ナラティブのまなざしが医療実践の文化にもたらすもの. *N:ナラティブとケア* 14. 29-34. (2023.1)
- 15) 市橋香代. 頓服薬についての意思決定で考慮すべきこと. *臨床精神薬理* 25(11), 1249-1254. (2022.11)
- 16) 橋本亮太, 市橋香代. 家族・当事者も一緒に作った統合失調症薬物治療ガイドライン 2022. *月刊みんなねっと*. 2022年9月号, 6-9.
- 17) 市橋香代. 【小学校5,6年生～中学生の診療を依頼されたときに】10代の子どもが経験する精神や行動上の困難について. *精神科* 40(6), 841-846. (2022.6)

菊池 昭彦

- 1) Haga M, Kanai M, Ishiguro A, Nishimura E, Minamitani Y, Iwatani A, Nishiguchi R, Miyahara N, Oka S, Sasaki A, Motojima Y, Saito K, Itoh K, Era S, Yabe S, Kikuchi A, Fuji M, Matsumoto M, Namba F, Sobajima H, Tamura M, Kabe K: Changes in in-hospital survival and long-term neurodevelopmental outcomes of extremely preterm infants: A retrospective study of a Japanese tertiary center. *J Pediatr* (in press).
- 2) Ishii K, Horikoshi T, Kanai M, Ishiguro A, Iwamoto Y, Ishido H, Kikuchi A, Masutani S: Transient Recovery of Complete Atrioventricular Block Due to Maternal Anti-SS-A Antibody Through Antenatal Steroid Administration After 27 Weeks of Gestation. *Cureus* (in press).
- 3) Nakamura E, Matsunaga S, Kikuchi A, Takai Y: Comparative retrospective study on the validity of point of care testing device for massive obstetric hemorrhage: dry-hematology vs thromboelastography, *Am J Obstet Gynecol MFM* 5:100778, 2023.
- 4) Samejima K, Takai Y, Matsunaga S, Nagai T, Kikuchi A: The safety and effectiveness of

elective laparoscopic surgery for benign ovarian cysts during pregnancy – Comparison with emergency surgery. *J Obstet Gynaecol Res* 48:2603-2609, 2022.

対馬ルリ子

- 1) 対馬ルリ子. 女性のライフステージとホルモンの変化. *Rp.+.* 21(1);38-45.2022
- 2) 対馬ルリ子. 妊娠・出産・育児期に特有の健康課題. *産業保健と看護*. 14(1);31-35.
- 3) 対馬ルリ子. 経口妊娠中絶薬の治験について. *東京思春期保健研究会 News Letter.* 156(3) 2022.
- 4) 対馬ルリ子. わが国の中絶・避妊の現状と課題. *医学のあゆみ*. 281(7);739-742. 2022.
- 5) 対馬ルリ子. ガールスカウト日本連盟「ジェンダー」に関する女性高校生調査報告より. *東京思春期保健研究会 News Letter.* 157(4).2022.
- 6) 対馬ルリ子. 女性のウェルネスからみるフェムテックの活用. *産婦人科の実際*. 71(13);15-21. 2022.
- 7) Yutaka Osuga, Kazuhiro Shirasu, Ruriko Tsushima, Ken Ishitani, Short-term efficacy and safety of early medical abortion in Japan: A multicenter prospective study. *Reproductive Medicine and Biology.* Volume22, Issue1. 2023
- 8) 対馬ルリ子. 男女の更年期障害とその予防や対策. *人事院月報*. 882;2-7. 2023.
- 9) 対馬ルリ子. 「人生100年時代」生涯健康は健診と相談の習慣から ～女性が輝くための特性を生かした健康習慣～. *総合診療*. 50(2);48-57. 2023.

鈴木 眞理

- 1) 鈴木眞理. やせ願望と神経性やせ症. *体育の科学* 72(9). 608-612. (2022.9)
- 2) 鈴木眞理. 神経性やせ症 学校での適切な支援をめざして. *よぼう医学 (公益財団法人東京都予防医学協会)* 547. 6-9(2023.1)
- 3) 鈴木眞理. やせ (過激なダイエット・偏

食含む) . 四訂栄養教諭論 第2版—理論と実際.159-162.2022

- 4) 鈴木真理. 摂食障害. 心療内科学—診断から治療まで—.236-239.2022.
- 5) 鈴木真理. 摂食障害など栄養障害のある若年者の治療は?もう悩まない! 骨粗鬆症診療 あなたの疑問にお答えします. 129-136.2022.
- 6) 鈴木真理. 自律訓練法. 臨床心理学中事典.220-221.2022

平池 修

- 1) A nationwide survey of the use of the laparoscopic power morcellator. Hiraike O, Koga K, Taniguchi F, Harada T, Takeshita T, Shiota M, Osuga Y; Laparoscopic power morcellator Research Committee in Japan Society of Gynecologic and Obstetric Endoscopy and Minimally Invasive Therapy (JSGOE). J Obstet Gynaecol Res. 2022 Nov 7. doi: 10.1111/jog.15492
- 2) Working conditions contribute to fertility-related quality of life: a cross-sectional study in Japan. Maeda E, Hiraike O, Sugimori H, Kinoshita A, Hirao M, Nomura K, Osuga Y. Reprod Biomed Online. 2022 Dec;45(6):1285-1295
- 3) Evaluation of atherosclerosis-related biomarkers during perimenopause: A prospective cohort study in women with endometriosis. Uehara M, Hiraike O, Hirano M, Harada M, Koga K, Yoshimura N, Tanaka S, Osuga Y. J Obstet Gynaecol Res. 2022 Dec;48(12):3160-3170.
- 4) Relationship between somatic symptoms with menstruation and intention to leave work among university hospital nurses in Japan: a cross-sectional study. Ota Y, Nomura K, Hirayama J, Maeda E, Komatsu J, Nakamura M, Yamada R, Ishikawa H, Kobayashi T, Shirakawa H, Aisaka K, Ono M, Hiraike H, Hiraike O, Okinaga H. Int Arch Occup Environ Health. 2022 Aug 1. doi: 10.1007/s00420-022-01905-0.
- 5) Elevated phosphorylation of estrogen receptor

α at serine-118 in ovarian endometrioma. Sun H, Hirata T, Koga K, Arakawa T, Nagashima N, Neriishi K, Elsherbini M, Maki E, Izumi G, Harada M, Hirota Y, Wada-Hiraike O, Osuga Y. F S Sci. 2022 Nov;3(4):401-409.

- 6) Impact of Chronic Exposure to Endometriosis on Perinatal Outcomes: Establishment of a Mouse Model. Elsherbini M, Koga K, Maki E, Kumasawa K, Satake E, Taguchi A, Makabe T, Takeuchi A, Izumi G, Takamura M, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Wada-Hiraike O, Osuga Y. Biomedicines. 2022 Oct 19;10(10):2627.
- 7) Long-term conservative management of symptomatic bladder endometriosis: A case series of 17 patients. Nagashima N, Hirata T, Arakawa T, Neriishi K, Sun H, Harada M, Hirota Y, Koga K, Wada-Hiraike O, Osuga Y. Taiwan J Obstet Gynecol. 2022 Jul;61(4):606-611.
- 8) Relationship between bone mineral density and ovarian function and thyroid function in perimenopausal women with endometriosis: a prospective study. Uehara M, Wada-Hiraike O, Hirano M, Koga K, Yoshimura N, Tanaka S, Osuga Y. BMC Womens Health. 2022 Apr 27;22(1):134.

若尾 文彦

- 1) Sezai I, Taniguchi C, Yoshimi I, Hirano T, Wakao F. How Self-Efficacy toward, Perceived Importance of, and Beliefs about Smoking Cessation Support Impact-Related Behaviors in Japanese Nursing Professionals. International Journal of Environmental Research and Public Health. 2022 Feb 17;19(4):2304. doi: 10.3390/ijerph19042304
- 2) Taniguchi C, Sezai I, Yoshimi I, Hirano T, Wakao F. Effectiveness of a smoking cessation educational program for Japanese nurses on subsequent changes of behavior in delivering smoking cessation counseling. Tobacco Induced Diseases. 2022 Feb 17;19(4):2304. doi: 10.3390/ijerph19042304.
- 3) Saito Y, Shimoi T, Iwata S, Maejima A, Abe

K, Udagawa R, Yonemori K, Furukawa T, Wakao F. Impact of relative dose intensity of trabectedin with pegfilgrastim support: a single-centre retrospective study. *Journal of Chemotherapy*. 2023 Jan 12;1-8. doi: 10.1080/1120009X.2022.2164116.

- 4) 若尾文彦. がん医療に関する情報の信頼性. *日本信頼性学会誌*.44(2):86-91.2022
- 5) 早川雅代、渡部乙女、下井辰徳、一家綱邦、高山智子、若尾文彦. 科学的根拠が不十分ながん免疫療法の情報収集から受療までの患者の気持ちと医師の悩みに関する質的調査. *日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌*.13(1);40-51.2022
- 6) 力武諒子、渡邊ともね、山元遥子、市瀬雄一、新野真理子、松木明、太田将仁、坂根純奈、伊藤ゆり、東尚弘、若尾文彦. がん診療連携拠点病院等の指定要件関連の詳細に関する実態. *病院*.5;436-441.2022
- 7) 齋藤義正、高橋宏和、若尾文彦. がん対策推進基本計画に基づいたがん化学療法チーム研修の役割. *日本公衆衛生雑誌*.69(7);527-535.2022
- 8) 力武諒子、渡邊ともね、山元遥子、市瀬雄一、新野真理子、松木明、太田将仁、坂根純奈、伊藤ゆり、東尚弘、若尾文彦. がん診療連携拠点病院等の指定要件に関する調査. *厚生*の指標.69(6);15-21.2022
- 9) 谷水正人、青儀健二郎、下井辰徳、加藤雅志、若尾文彦、中釜 斉. 抗がん剤外来治療は採算せいが確保されていないー全国がんセンター協議会加盟 32 病院の外来通院治療と入院治療の粗利額比較分析ー*日本医療マネジメント学会雑誌* 22(4);183-188.2022.

2.学会発表

大須賀 穰

- 1) 本邦における POI に対する診療の実態調査 生殖医療を中心に. 丸山哲夫, 内田明花, 岩瀬明, 河村和弘, 榊原秀也, 高橋俊文, 寺田幸弘, 大須賀穰. 第 67 回日本生殖医学会学術講演会, 2022/11/3, 国内, 口頭.

- 2) 反復着床不全 子宮腺筋症合併不妊に対する治療指針の探求. 松尾光徳, 廣田泰, 藍川志津, 石沢千尋, 飯田麗, 平田知之, 賀来哲明, 福井大和, 赤枝俊, 平岡毅大, 大須賀穰. 第 67 回日本生殖医学会学術講演会, 2022/11/3, 国内, 口頭.
- 3) 着床期子宮におけるプロスタグランジンシグナルを介した胚生育巣形成機構. 藍川志津, 廣田泰, 有田誠, 磯部洋輔, 杉浦悠毅, 赤枝俊, 松尾光徳, 大須賀穰. 第 95 回日本生化学会大会, 2022/11/9, 国内, 口頭.

春名 めぐみ

- 1) 浅井 百合絵, 春名 めぐみ, 笹川 恵美, 米澤 かおり, 臼井 由利子, 橋本 耕一, 小林 浩一. 経会陰超音波と腔圧計を用いた産後 1 ヶ月までの骨盤底の形態と収縮力の検討. 第 95 回日本超音波医学会. 2022/5/20-22.
- 2) 春名めぐみ. 次世代に健康をつなぐ助産学からのアプローチ. 日本臨床栄養学会・協会第 20 回大連合大会, 岩手県, 2022/10/9
- 3) 春名めぐみ.次世代に健康をつなぐ助産師の役割.第 6 回日本産前産後ケア・子育て支援学会. 東京大学伊藤国際学術研究センター, 東京, 2023/3/25
- 4) Yonezawa K, Kido M, Haruna M, Sasagawa E, Usui Y. A global survey of patterns of complementary foods for infants. The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars, The University of Tokyo, Tokyo. March 10-11, 2023.

市橋 香代

- 1) 市橋香代.統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 の概説 Part1 総論：当事者や家族との共同作成のプロセス. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 2022/6/18
- 2) 市橋香代. 不確実性と未来：ナラティブセラピーの観点から. 日本ブリーフサイコセラピー学会第 32 回東京オンライン大会, 2022/9/11
- 3) 市橋香代. 診療ガイドラインとは：当事

者家族が参加する意義. 第 17 回日本統合失調症学会オンライン大会, 2023/3/25

菊池 昭彦

- 1) Kikuchi A: “Application of new US technologies in OBGY outpatient clinic”. 14th Congress of the Asian Federation for Ultrasound in Medicine and Biology (AFSUMB 2021), Zhuhai, China, September, 2021

鈴木 眞理

- 1) 小原千郷, 西園マーハ文, 関口敦, 森野百合子, 菅原彩子, 鈴木眞理. 日本語版 Zarit 介護負担尺度短縮版の摂食障害への応用可能性の検討. 第 132 回日本心身医学会関東地方会 (Web 開催) 2022/2/5-6.

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし